

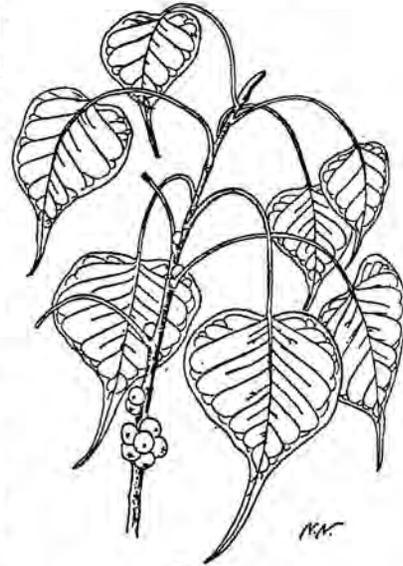
奈良・人と自然の会

釈迦と菩提樹

寺田正博

12月8日は釈迦が菩提樹の下で悟りを開いた日とされている。釈迦がさまざまな遍歴と苦行の末、ウルビルバ村のアシュパッタ（ピッパラともいう）の木の下で菩提を得たので以後この木を菩提樹と呼ぶようになった。この木は神々の住処と崇められ、不死を授けると言われていた。

菩提樹と呼ばれている木には幾つかある。日本の寺院等に菩提樹として植えられている木は、中国原産のシナノキ科の樹木であり、釈迦がその木の下で悟りを開いたという本物の菩提樹（インドボダイジュ）とは全く別種である。インドボダイジュはクワ科の樹木である。インドボダイジュが温帯では育たないためか、何処で間違えられたのか、中国ではこの木が菩提樹として寺院に植えられていたようだ。平安時代、中国へ修業に渡った栄西（京都、建仁寺を開山）が帰国の時に天台山からこの木を持ち帰って、比叡



菩提樹

山に植えたのが最初だといわれているが明らかではない。またシューベルトの歌曲集「冬の旅」で有名な「菩提樹（リンデンbaum）」は日本産のシナノキによく似たヨーロッパシナノキである。本来ならインドボダイジュがボダイジュという和名を得るべきだったのだろう。

また昔から数珠はボダイジュの実で作ったものが最高とされている。この発端は仏説校量数珠功德経の、鉄の珠の数珠をもって一誦すれば功德五倍。赤銅の珠の数珠を用うれば功德十倍。真珠、珊瑚の数珠は百倍。木楼子（ミクロジの実）の数珠は功德千倍、もし、諸仏の浄土に往生せんと欲するものは、この珠を用うべし。蓮子（ハスの実）の数珠は功德万倍。翡翠の数珠は功德百万倍。水晶の数珠は功德万万倍。菩提子の数珠をもって一誦すれば功德無量倍。という意味の偈からでたものである。勿論数珠の材料によって功德が違いうわけではなく、要は念誦する心でありと教えたものである。

功德無量倍の菩提子は素直に解釈すれば、インドボダイジュの種子であるが、しかし、インドボダイジュの種子では数珠は作れない。正しくはジュズボダイジュ（インドジュズノキ）の種子である。シナノキ科のボダイジュの種子も数珠に作られるがかわいい実（直径7～8ミリ）である。唐招提寺の菩提樹は、鑑真請来の菩提子に由来するものとされて著名である。蓮子、菩提子の数珠は正倉院にも保存されている。

尚、諸説があり定かでない部分も多いと思われる。

合掌

参考 《菩提》 サンスクリット語 bodhi の音写。漢訳の〈智〉〈道〉〈覺〉などは意識
仏陀の混ざり気のない正しい悟りの智。一切の煩惱から解放された、迷いのな
い状態。

参考引用文献 「仏教植物散策」中村元編 「仏典の植物」満久崇唐
「岩波 仏教辞典」 「図解雑学 仏教」廣沢隆之 他

旅紀行(Ⅲ) クマゲラとアポイ岳を訪ねて (I)

市村 米子

ハト大の身体は黒 いいえカラスよりもっと黒 頭には真紅のベレー帽を小粋にかぶり
クリクリしたいたずらっぽい丸い目の持ち主
それは天然記念物 クマゲラ。NHK の映像での出会いは
ショッキングでした。

実は3年前函館での観察会のこと、大木の大きな穴を見て
ビックリしたら、先生は「クマゲラの食痕だよ。冬には
30匹ほどの越冬中のムネアカオオアリを大木の生木を豪
快に1時間も掛けて探し出すんだ」と教えてもらったのが
始まりで、去年は層雲峡へ観察会に行った時、ビジター
センターで、近くの小学校にクマゲラが来ているという情
報を得、早速行ってみたが子育てが終わりもう見なくなっ
てしまっていた。

さて今年 TV のクマゲラを見てからどうしても、逢いた
い見たい3年越しの思いが有澤先生という力強い味方を
得てとうとう実現しました。



有澤先生：東大演習林に40年間勤務、北の森に魅せられ動物や植物をこの上なく愛し、
慈しみ、大切に守り、退官してからも自然保護に力を注いでおられます

「案内は5人までだよ。子育て中だから」と言われたが希望者が多くて、8人お願いして
しまった。

6月6日

千歳に降り立ちすぐさま車でクマゲラの住まいへ直行。

案内されたのは車道からそう遠くない二抱えもありそうなエゾマツ、トドマツの先生ご自
慢の森。先生が指差す木を見ると、樹形の整った立派なトドマツの地上10m程の所にぼ
っかりと握りこぶし大の穴があいている。鋭い嘴で根気よく掘られたクマゲラの巣穴だ。

8名それぞれが思い思いに一番良く見えると思う場所、なおかつクマゲラからあまり目立
たない場所で、カメラを構えるもの、ビデオ フィールドスコープ 双眼鏡等持ってひた
すら待つ。待つ事40分余り。

突然キョーンキョーン 静かな森に哀調に満ちた美声が響きわたった。「来たー」だが辺りを見渡しても姿は見えない。私たちが警戒しているのか。キョーンキョーン「あ！あそこ」真紅のベレー帽がいた。なかなかお目当ての巣穴の木にはやって来ない。なんとか木を替え、ドラミングしながら 首を右に左に、上に下に動かし まるでイナイイナイパーをするかのように、隠れては少し姿を見せ、見せては又隠れる。近辺を幾度となく飛び回り、来ました。ついに巣穴に。

2本の足と尾羽の3点確保で体を支え、キョーンキョーン 親の合図を待ってたのか「雑だ！」黄色い嘴をいっぱい開いて1匹2匹、穴から待ってましたとばかり顔を出した。親鳥は警戒してか辺りをキョロキョロと何度か見渡し、納得したのか身を巣穴に潜りこんで行く。ぽっかり空いた巣穴からまだ目が放せない。

「あ！」一瞬の内に親鳥は飛び出し、たちまち見失ってしまった。

黒い体にくりくりした愛くるしい目、真っ赤なベレー帽が強烈に焼きついた。

先生に促されて我に返り 後ろ髪惹かれる思いでいると、嬉しい一言「明日もう一度見れるかもよ」

6月7日

ダケカンバ トドマツ エゾマツ 足元にはネマガリダケが生い茂る原生林へ。朽ちた古木の跡に一系列の新たな芽吹きが見られる、倒木更新である。また樹木の幹が裂け割れているのを発見、凍裂現象といって、真冬における最低気温が -30°C を超える事がしばしばあるここ富良野では、余りの厳しい低温のため樹木の幹が裂け割れるのだ。笹で覆われた道を掻き分けながら、ナンブソウやおオバナノエンレイソウ、サンカヨウ等が顔を覗かせている道をどれくらい歩いたろう。先生が立ち止まった。8名一斉に構えた。蚊が獲物が来たとばかり、ワンワン周りに寄ってくる。ガマンガマン。

キョーンキョーン おなじみの声だ。今度も私たちが焦らすこと！ やっと巣穴にたどり着き例の3点確保でふんばり、辺りをキョロキョロ。キョーンキョーン あっ！なんと！巣穴からもう一匹飛びして来たでは無いか。出てきたのは雌。ちょっと帽子が小さい。交代だ。雄はパトンタッチして巣穴に入る。すごい光景を見てしまった。予想もしてなかった。もう興奮気味！ クマゲラは夫婦共稼ぎで巣作りから始まり、卵を抱き温め、せっせと雛に餌を運び、1ヶ月半から2ヶ月もかかって育て上げ巣立たせるのである。仲が良いなー。痒い痒い 虫刺されの薬も一向に役に立たない。皆大きな藪蚊の餌食になった。

6月8日から6月10日まで旅は続きますが次回のお楽しみにお待ちください





第12回 東海自然歩道・自然観察会 (笠置山古道)

豊田 正生

あやぶまれたお天気も次第に晴れるでしょうとの予報に気を良くして、10月27日(水) 総勢22人が近鉄奈良駅に集合し笠置古道に出発しました。昨年10月から始まった東海自然歩道・観察会12コースの最終日です。

駅前からバスに揺られること50分、柳生に到着。あの大河ドラマで賑わった柳生の里も今日はひっそりとした田園風景、バスを降りたのは我々と二人の女性ハイカーでした。先ず最初に真っ赤な実をつけたウメドキに对面、早速準備体操をして歩き出しました。遠くに見える初代十兵衛杉が梢のあたりで接木されていることを教わりながら、溝端にヤマジノホトトギス(ヤマホトトギス・ホトトギスありややこしい)が白色で紫の斑点が散在する花をたくさんつけて華やかに迎えてくれました。道端と田の間にはつる状の茎がぐるぐるに絡んだ間から洋梨状のかたい長さ13cmぐらいの果実がぶら下がったハヤトウリが栽培されていました。ヤブコウジ・ヤブラン・カラムシそして小さなピンク色の花をつけたキツネノマゴ・川一面を覆ったツルヨシなど観察。いつも教えてくれる寺田さんが配られた地図記号で・とあるのは、茶畑の印、これは茶の木の実が熟すと茶色になり3裂するところから来ているとか。双眼鏡を持たずに、はるか遠くのモズを見つける人、鳴き声を聞きカケスがいてと叫ぶ人、鳥にも詳しい人がおられ観察会がいつも楽しくなりました。

やがて柳生の里を背に、阿弥陀如来は流行病に、お豆腐を供えると子宝に恵まれるといわれる地藏菩薩の「阿対(あたや)の石仏」に出ました。石仏からすぐのところ打滝川の橋がかかっています、そこは京都・奈良の県境だとか。大きなアオサギが飛び立ち羽ばたいて遠くのとっぺんにとまりました。ゆるい下りをのんびり歩きゴルフ場を右に見て、広い道から再び林の中に入ると、道端に茎・葉柄ともに刺があり他のものにかままってよく茂るので嫌われるカナムグラ、しかしよく見ると雌花のが苞赤紫に色づき美しく冴えていました。葡萄の房を小型にした黒紫色の熟したアオツツラフジの果実が目立ち、つる性の茎・葉柄が適当にある葉、全体の姿が私には自然の造形としてなんとも美しく写りました。

般若六角堂跡で昼食、丁度六角堂の礎石が一人一つの椅子になり楽しい食事となりました。食後寺田さんから「紅葉のしくみ」と「マツ枯れ病」の説明がありました。大きな葉っぱのゲンショウコ、シロダモ、ナワシログミの小さな白い花、そしてヤマブキなど観察しながら笠置寺の境内(毘沙門堂の前)に到着。これからは観光が主となり、拝観料300円を払って行場めぐりの遊歩道に入りました。巨大な弥勒岩の摩崖仏をはじめ、こんな山の上に多くの巨石があるのがとても不思議でした。胎内くぐりのトンネルを抜けると、木津川の流域が美しく見えました。ゆるぎ石、蟻の戸わたりなどを通り、もみじ公園から山門を出て急な道を紅葉していればどんなに綺麗かと思いつながら下り、笠置の町に15時すぎ到着。わかさぎ温泉に入り、16時から打ち上げ、最初に完歩者お二人の表彰がありました。思いがけないご馳走も出て、今日の反省など述べました。1時間に1本しかないJRのことほどほど中締めとなり、楽しく解散し帰途につきました。

最後に奈良人と自然の会の行事がいつ参加しても、資料やコースの解説が非常に親切で、とても行き届いていてリーダーの方の並々ならぬご尽力に感謝いたします。ありがとうございました。

東海自然歩道・観察会を歩き終えて

福谷 峯子

とうとう今回が最終回となりました。思いもかけず全コース途切れることなく歩き繋ぐことが出来、本当に感無量です。

充実感に浸りながら振り返ってみると、万難を排しこの12回私を参加に駆り立てたものは教室などではなく、風がそよぎ四季移ろう野や山をハイキングをしながら（私にとって）珍しい樹木、草花、鳥達その他いろいろな生物について細かく丁寧に教えていただくことでした。先輩方の博学さに只只びっくり、自分の無知さを今更ながら痛感しつつ終始感嘆の声を上げていました。生物だけにとどまらず、その土地の歴史、寺社の由来、気候、地図、双眼鏡の合わせ方、歩き方等等様々のことを教えていただき、一石十鳥以上、嬉しくて楽しくて満足感に溢れた1日1日でした。これもお世話役の方たちの下見、沢山の資料などの土台あってのことと思います。

12回を歩き終えて生物たちのその営みの神秘さに感激すると共に、アウトサイダーにも拘らず親切に接して下さった先輩の皆様に改めて人の和、温かみを感じ、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。紹介して下さった水田さん、協力してくれた家族、健康にも感謝しています。また、この貴重な会が末永く続きますこと、これからもずっと参加させていただけることを願っております。



第2回シリーズ（東海自然歩道）を完歩して

勝田 緑

完歩を機に今までの足跡を振り返ってみました。

- 第1回曾爾高原 10/30 快晴 38名の参加。ツチアケビをはじめ見てびっくり！
- 第2回奥香落 11/18 霜が降りてました。フイチゴの実をいっぱい食べました。皆笑顔
- 第3回室生寺 12/8 巨大な杉が台風で倒れた痕を見ました。今見てもすごかったです。
ハダカホオズキとヒヨドリジョウゴの違いを知りました。
- 第4回額井岳 1/19 ジャケツイバラの実 弓場さん紅茶おいしかったです。
- 第5回鳥見山公園 2/11 オシドリの群れに皆感動！
- 第6回初瀬街道 3/28 玉列神社の椿、イソヒヨドリ、カワセミ、ニューナイスズメ・・・
- 第7回山の辺の道Ⅲ 3/30 下見に参加モンツキウマゴヤシが前回より増えていました。
- 第8回山の辺の道Ⅱ 5/11 本番は靴下がぐしゅぐしゅ。下見でよかった（ごめんなさい）
- 第9回山の辺の道Ⅰ 6/16 虫こぶをいっぱい見た。クララ（クサエンジュ）を知る。
- 第10回滝坂の道 7/22 下見でヒルにかまれたのでヒル除けの用意をしてもらい、無事。
- 第11回柳生街道 9/17 ヒヨドリバナとオトコエシの違いを知りました。
- 第12回笠置山古道 10/27 わかさぎ温泉にて完歩のお祝いをしていただきました。

毎月この日が待ち遠しかったです。この行事を企画・実践された幹事さんたちのご苦労に感謝しております。特に寺田さん弓場さんには第1・第2シリーズ合わせて下見、本番と休まずに参加され、説明も行き届き、ただただ頭が下がります。お二人に完歩賞を！これからもお体に気をつけられ、次の企画を心待ちにしております。

「東海自然歩道・観察会」最終回を担当して

樋口 善雄

雨の心配をしたが、曇天のハイキング日和に恵まれました。

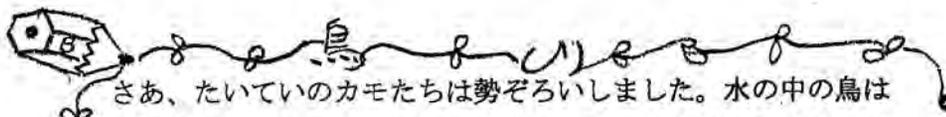
10月27日、この日22名が参加した「東海自然歩道・自然観察会」は、復路の最終回を迎えた。降り立った柳生のバス停では、見事なウメモドキが我々を送迎してくれた。

村落には「十兵衛」の冠詞をつけた屋号や商品がやたらと多い。町おこしの一端を担って十兵衛も冥土でさぞかしご満足と推察する。

今回の目的地である笠置寺まで、緩やかな上りのコースで、中秋の季とも言うべきか、季節の到来が多少遅い感じを受けた道程であった。弥生時代の巨岩信仰から天武天皇勅願所、東大寺正月堂の存在、良弁僧正も労した大磨崖仏、巨岩に切りつけた一刀石等々、この笠置古道は自然歩道を外れて周辺の旧跡を楽しみたいコースの一つである。

さてこの観察行、往路・復路ともにスタート・ラストの担当が、多少因縁めくが私なのである。ここでも毎回バックアップしていただいた寺田・弓場両幹事の後援を得ている。各回の担当者もさることながら、毎回そのコースに因んだ資料・地図等準備いただいた両氏に改めて感謝の辞を述べる。

会員の皆さんも、このような楽しい行事の企画提案をお願いして今回の報告といたします。

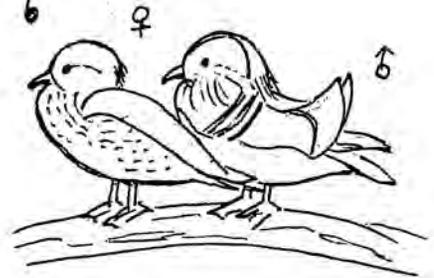


さあ、たいていのカモたちは勢ぞろいしました。水の中の鳥は比較的ゆっくり見ることが出来ますので、鳥見を始める良い季節です。今、オスはとても綺麗な繁殖羽に変わり「お嬢さん、お茶しない!」としきりにメスを追いかけています。上手くゲット出来たカップルは今度はオスがリードしています。たまには三角関係(?)とか、オトコばかりで大丈夫かしらと気になる水辺があったり。人の気配を感じると静かに遠くへ逃げる池があるかと思うと、反対に人の気配で大勢がこちらに向かって来る池があったり、カモたちにも清貧にして孤高を好むカントリー派と手軽に豊かさの恩恵を求め賑やか好きなシティ一派があるようです。貴方はどちらに共感しますか? 身近でも人の入らない池に案外オシドリがいたりしますヨ。暖かい装備を忘れないでお出掛け下さい、運がよければ上からオオタカなどがダイビングするのがみられるカモ。

★チョットお勧めの鳥の本 2002年に出生した おもしろいカモ

「カラスの早起き、スズメの朝寝坊」 柴田俊隆著

【小田久美子】



オシドリ

ドンブリを好み

木に登ることも多ク

巣は樹洞に作る

忍辱山森林整備活動に参加して

柳田 弥知子

一度参加したいと思いつつも、なかなか実現できずにいた忍辱山国有林での森林ボランティア活動。10月24日ようやく実現。

ここ半年間の私自身のささやかな体験から、森林ボランティアは、もっと力があって若さがないとだめだなあと痛感していたのですが、それでも森の魅力に引っ張られるような思いで、参加させてもらいました。

「ここなんですよ。」とバス停まで迎えに来てくださった弓場さんの案内ですぐ現地に着。会報に毎回書かれていたように、そこはかなり間伐も進んで明るい森になっていました。これまでの皆さんの活動ぶりが、見えるようでした。

寺田さんが、ていねいな指導で作業への誘導をしてくださる。私は下刈り、枝打ちや枝払などの作業ならできるかもと参加したのですが、「これ 伐ってみますか」といわれた。「できるかなあ」という不安はあったが間伐してみたいという気持ちも強く、ノコを持ちました。「よく倒す方向や場所を考えて」「ノコが直角になっているか、何度もよく見て」「ノコ まっすぐ まっすぐに」と適切なアドバイスを何度もしてもらって、ようやく ヤッター。伐倒した木を細かく伐る際も「ノコの両側を見ながら伐るのがコツですよ」と言われるが、要領がなかなかつかめない。それでも必死で悪戦苦闘して「きれいに伐れていますよ」と言われホッとする。

2本目の根っここの曲がった木では、受け口を伐ってる時、ノコが全く動かなくなったり。一本一本の木の違いに、あらためて気づかされました。

当日の圧巻はなんといっても2本の木の同時伐倒でした。(勿論、私は見学)懸かり木してしまった木をロープを使って数人の男性たちで引っ張られたが、どうしても動かない。その木にもノコが入られることになり、8、9人の男性陣で「ヨイショ」「ヨイショ」と、掛け声も勇ましく、熱も力も入った時間がずいぶん長く続いた。ドーン と地ひびきをたて、2本の木が一度に倒れる様は、一種すご味を帯び恐ろしくさえ思えた。「これ、解体したら、今日の作業はオワリ」……男性全員かかりきりでも、その解体は時間がかかった。

本当に、込み合って植えられてる森林内での間伐の難しさを見せていただきました。

秋になったとはいえ、まだまだ汗をかく作業でしたが、森の中にいる爽やかさは、たとえ様もなく気持ちよき一日になりました。





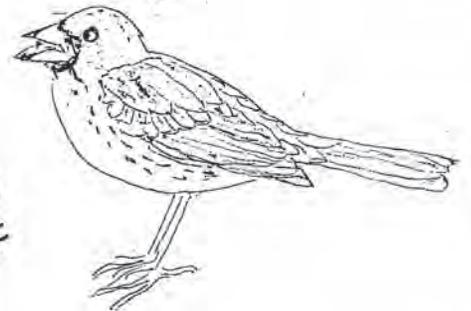
地域情報



- ※ 家の前で、ツグミの鳴き声を聞く。 11/10 奈良市 小田
- ※ アメリカハナミツキの実をムクドリとヒヨドリが食べていた。 11/6
- ※ ツグミの初見 11/11 竜田公園 勝田
- ※ 家の近くの駐車場でハクセキレイがサイドミラーに写る自分の姿をつついてた。
- ※ カワセミを11/10より5回のべ6匹見た。24日には水の中に飛び込み8cmぐらいの魚を捕まえて嘴ではさんで弱らせて頭から飲み込んだ。竜田公園 勝田
- ※ 裏の新池に今年もハシビロガモが4羽渡ってきました。今年コガモの着池が遅れているようです。 樋口
- ※ わが町の鎮守の杜「養天満宮」にコジイ(ツブラジイ)の実が落ちており、持って帰って、おやつとしていただいています。 樋口



行事案内



【奈良忍辱山森林整備作業】

〈場所〉 奈良市忍辱山国有林 (集合場所より東海自然歩道、柳生街道を奈良方面へ約10分 淀川、木津川、白砂川の源流域)

〈集合場所〉 忍辱山円成寺駐車場 (バス停 円成寺口と忍辱山円成寺との中間)

〈日時〉 12月 5日(日) 11時30分 第17回
 12月20日(月) 11時30分 第18回
 1月15日(土) 11時30分 第19回
 1月25日(火) 11時30分 第20回

(9時20分にはスタッフは駐車場に居ります)

【天候】 午前6時 奈良県北西部に警報が発表されている場合は中止いたします

〈交通〉 奈良交通バス [邑地中村行き] 柳生方面

JR奈良駅③番乗り場 近鉄奈良駅④番乗り場 忍辱山円成寺

各日とも

8:26 8:29 9:02

10:40 10:43 11:16

奈良交通 ☎0742(20)3100

〈持ち物〉 ヘルメット(防災用)・手袋・鋸・スパッツ・弁当・飲み物他
 ヘルメット・鋸・等 用具は当会にて多少は用意しております。

《未経験者には基本より指導いたしますので、お気軽に来て下さい。
 作業をしなくても森林を楽しみに、森林浴をしませんか》

〈連絡先〉 弓場厚次
 阿部和生
 寺田正博



ネイチャーなら
奈良・人と自然の会

12月度例会と平成16年を送る忘年会
「多武峰・談山神社から飛鳥路」自然観察会

春はサクラ、秋は紅葉の美しい談山神社も静かな師走を迎えます。多武峰・談山神社より冬野川の清流に沿って数々の石仏や初冬の棚田を眺めながら飛鳥・石舞台に向います。忘年会にも気楽にご参加ください。

- 〈日時〉 : 12月6日(月)
 〈集合〉 : 近鉄桜井駅南口 午前9時30分
 〈交通〉 : ・西大寺 [橿原神宮前行急行] 8:41...八木9:05(乗換)
 ・近鉄難波 [奈良行快急] 8:27...鶴橋(乗換) [青山行急行] 8:38...八木9:14
 ...桜井9:18着

- 〈行程〉
 近鉄桜井～多武峰...談山神社...御破烈山...石舞台古墳～橿原神宮前～近鉄八木
 〈忘年会〉 : 解散後に忘年会を開催いたします。
 〈担当〉 大石門三 寺田正博 弓場厚次



ネイチャーなら
奈良・人と自然の会

1月度例会 新春講演会と自然観察会

- 1 日時 1月22日(土) AM 10:00～
 2 場所 奈良公園・国際奈良学セミナーハウス
 3 集合 近鉄奈良駅 行基菩薩像前 AM10:00
 4 スケジュール AM 奈良公園 現場実習
 PM 講演「奈良公園の植物」
 5 講師 北川 尚史氏
 [略歴] 1935年生まれ 京大植物学科卒 理学博士
 奈良教育大名誉教授 現 奈良産業大学教授
 近著に「奈良公園の植物」

【いこま棚田クラブ】

(教育実習認定行事) 定員10名

講座生の方はアシスタント経由お申し込みください。

参加自由! どなたでもどんどん来てください。(棚田は広い、あなたを待っています。)

いこま棚田クラブ

生駒棚田通信

いこま棚田クラブのホームページが出来ました。
クラブ案内・ニュース・活動日誌・会員コーナーがあります。
最新情報を載せていますので是非ご覧ください。
<http://www.k2.dion.ne.jp/~ikoma/>



- ・棚田の雑木林にネイチャートレイル(自然散策路)を作ろう。
(教育実習として参加者が6名以上集まった時に、常緑樹の整理伐、玉きり、階段作りを継続して行う。)
- ・毎月第三日曜日は棚田デー(タクシーをチャーターして棚田まで無料送迎・おにぎりを用意します。)
作業後、地元の方を交え交歓会(アルコールOK)の実施。
- ・収穫祭を兼ねて“大とんど焼き”を計画。(H17年1月9日(日) or 1月10日(祝、月))

- ◆12月活动日 第75回 12/5(日) 第76回 12/13(月) 第77回 12/19(日)
- ◆1月活动日 第78回 1/10(月) ※大とんど焼きが1/9(日)の場合は1/9に変更します。
第79回 1/16(日) 第80回 1/24(月) 第81回 1/30(日)

(集合時間をセブイレブ前 9:00としていますが9:30発もありますので無理な方は申し出て下さい)

- ◆集合場所 近鉄生駒駅下車(錦糸駅より快速15分)南口側ケーブル駅 西隣りセブイレブ前
 - 集合時間 9時00分 現地まで車で移動(15分)
 - ◆持ち物 弁当、飲み物、観察用品、軍手、長靴、草刈り鎌(有る人)
- お願い: 生駒駅からは車で移動します。参加者は事前にtelまたはfaxで下記までご連絡願います。
事務局 大寺道代(

2004年11月度 定例幹事会報告

「日時・場所」 平成16年11月5日 奈良県女性センター
司会: 豊島 書記: 大石 出席者: 9名。

「報告事項」

- ① 会員数: 90名 会計残金: 185,382円
- ② 10月度例会「明日香路自然観察会」参加者8名 11月号機関紙に一行報告。
- ③ 東海自然歩道自然観察会 第12回「笠置山古道」参加者22名。
復路12回の参加者総数は256名、皆勤者は勝田緑、福谷れい子さんの二人でした。
(忘年会時に会長より表彰) 10回は砂山昭子、吉村さつきさんの二人でした。
- ④ 奈良・忍辱山森林整備作業 10月度2回の実施で15名参加。北斜面は終了し西斜面に取掛かる。
- ⑤ 黒髪山自然塾・工作教室 応募者が少なく中止。
- ⑥ 「いこま棚田クラブ」10月度は5回実施。

編集担当: 勝田 均

Tel&Fax:

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫